

## 事業番号

2023 - 文科 - 22 - 0355

## 令和5年度行政事業レビューシート

( 文部科学省 )

事業名	日本武道館補助			担当部局庁	スポーツ庁		作成責任者		
事業開始年度	昭和40年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	政策課		企画調整室長 日比謙一郎		
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第33条第3項			関係する計画、通知等	第3期スポーツ基本計画(令和4年3月25日文部科学大臣決定)				
政策	11 スポーツの振興			主要経費	教育振興助成費				
施策	11-1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育成・場の充実								
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_11-1.pdf								
事業の目的(5行程度以内)	スポーツ基本法(平成23年法律第78号)の規定に基づき、我が国伝統の武道を国民、特に青少年の間に普及奨励することを目的とする公益財団法人日本武道館に対し、古武道保存事業、青少年武道錬成大会開催事業、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に必要な経費の一部を補助し、もって、日本武道館主催・共催の各種武道行事の普及・啓発を図る。								
現状・課題(5行程度以内)	(1)古武道事業:日本古武道協会との共催により、全国各地に伝承されている古武道各流各派の中から由緒ある35流派による演武大会が開催され、所期の目標が果たされた。 (2)青少年武道錬成大会開催事業:心身の鍛錬と相互の交流を図るとともに、地方武道館の活動の活発化、地方武道の普及・発展を目的に行い、成果を上げた。 (3)武道指導者講習会:中学・高等学校・大学の指導者及び将来指導者を対象とする大学生を対象に研修会が実施された。中央から地域に講師を派遣し、地域武道の発展振興が図られた。 (4)武道国際交流事業:留学生等の外国人を対象に体験セミナーが実施され、武道を通じた国際友好親善が図られるとともに、武道文化による交流を通じて武道の国際的理解と普及振興が図られた。								
事業概要(5行程度以内)	公益財団法人日本武道館の実施する、以下の事業に必要な経費の一部を補助金として交付する。 (1)古武道保存事業:全国各地に伝承されている古武道各流各派による継承保存のための演武大会を開催する。 (2)青少年武道錬成大会開催事業:小・中・高校生を対象に、柔道・剣道等武道9種目の錬成大会を開催する。 (3)武道指導者講習会:学校や社会教育の場等で武道実技指導者、武道指導者を対象に、実技指導法などの研修会を実施する。 (4)武道国際交流事業:在日外国人留学生、在日大使館職員等を対象とした国際武道文化セミナーの開催、海外に武道代表団を派遣しての交流事業を実施する。 補助率:定額								
事業概要URL	<a href="https://www.nipponbudokan.or.jp/shinkoujigyou">https://www.nipponbudokan.or.jp/shinkoujigyou</a>								
実施方法	補助								
補助率等	定額								
予算額・執行額(単位:百万円)(インプット)	予算の状況			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
		当初予算(A)		62	62	62	62	62	
		補正予算(B)		-	-	-	-	-	
		前年度から繰越し(C)		-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)		-	-	-	-	-	
		予備費等(E)		-	-	-	-	-	
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)		62	62	62	62	62	
執行額(G)		3	36	62					
執行率(%) =(G)/(F)		5%	58%	100%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		5%	58%	100%					
令和5・6年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算項目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)				
	(項)	スポーツ振興費							
	(目)	民間スポーツ振興費等補助金	62	62					
		その他	0						
	計(A)	62	62						

活動内容① (アクティビティ)	(1)古武道保存事業 全国各地に伝承されている古武道各流各派による継承保存のための演武大会を開催する。									
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	古武道35流派による大会を開催し、古武道の保存と伝承、修得者増並びに指導者育成を推進する。	古武道保存伝承のための大会開催する流派の数。	活動実績	流派	-	25	35	-	-	
			当初見込み	流派	-	35	35	35	35	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	古武道の保存のために大会が開催されることは重要であるが、さらに参加者が増えることで伝承者、修得者、指導者の増加につながると考えられるため、大会への参加者数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度		
	古武道35流派による大会を開催し、参加者数を3,000人にする。	35流派の大会の参加者数	成果実績	人	-	2,855	1,700	-		
			目標値	人	-	3,000	3,000	3,000		
			達成度	%	-	95.2	56.7	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	日本武道館補助金 実績報告書 ※令和2年度は、東京2020大会の開催と重なったため実施していない。 ※令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限及び無観客で行った。									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	日本古武道演武大会の実施が、最終目標である古武道の保存と伝承、競技人口の維持向上に結びつくため、長期アウトカムに設定した。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10年度		
	日本古武道演武大会を開催し、競技人口の維持向上を図る。	競技人口	成果実績	人	-	-	-	-		
			目標値	人	-	-	-	340,000		
			達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	日本古武道演武大会出場流派(令和元年資料)									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
	-									
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
	-									

活動内容② (アクティビティ)	(2) 青少年武道錬成大会開催事業 錬成大会を開催して基本技能の錬成・習得を図る。									
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
	青少年武道錬成大会をできるだけ多く開催する。	青少年武道錬成大会開催数	活動実績	回	3	21	45	-	-	
			当初見込み	回	52	55	46	46	46	
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	地方の小、中、高生を対象に、錬成大会を開催して地方青少年の健全な育成と地方武道館の活動の活発化、地方武道の普及・発展を図るため、また、全国の小、中学生を対象に、錬成大会を開催して心身の鍛錬と相互の交流を図るとともに正しい武道の普及により、青少年の健全な育成を図るため青少年武道錬成大会参加者数を短期アウトカムとして設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5年度		
	青少年武道錬成大会参加者を8,000人にする。	青少年武道錬成大会参加者数	成果実績	人	263	1,320	7,309	-		
			目標値	人	8,000	8,000	8,000	8,000		
達成度	%	3.3	16.5	91.4	-					
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	日本武道館補助金 実績報告書 ※令和2年度は、東京2020大会の開催と重なったため実施していない。 ※令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限及び無観客で行った。									
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	青少年武道錬成大会開催事業の実施が、最終目標である各種武道の普及や将来的な武道人口増加に結びつくため、長期アウトカムに設定した。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10年度		
	青少年武道錬成大会を開催し、競技人口の維持向上を図る。	競技人口数	成果実績	人	-	-	-	-		
			目標値	人	-	-	-	2,410,000		
達成度	%	-	-	-	-					
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績	武道登録人口実態調査(平成30年)									
アウトカム設定について の説明	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由									
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由									

<b>活動内容③</b> (アクティビティ)	(3) 武道指導者講習会 武道指導者研修会を実施し、各武道指導者としての資質・能力の向上を図る。								
↓									
<b>活動目標及び活動実績</b> ③ (アウトプット)	<b>活動目標</b>	<b>活動指標</b>		<b>単位</b>	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	柔道、剣道、相撲など9種目10事業について計88回の指導者講習会を開催する。	武道指導者講習会開催数	活動実績	回	4	33	88	-	-
			当初見込み	回	100	88	88	92	92
↓	<b>成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)</b> 中、高、大学生の指導者及び将来指導者を対象に武道指導者研修会を実施し、各武道指導者としての資質・能力の向上を図るため、また、中学校武道必修化の充実に向けて、中央から地域へ講師を派遣し、武道指導者の専門的な知識と技術の充実を図るとともに、地域武道の発展振興を図るため設定した。								
<b>成果目標及び成果実績</b> ③-3 (長期アウトカム)	<b>成果目標</b>	<b>定量的な成果指標</b>		<b>単位</b>	令和2年度	令和3年度	令和4年度	<b>目標最終年度</b> 10 年度	
	柔道、剣道、相撲などの専門的知識と技術の充実を図り、修得者数の維持向上を図る。	柔道、剣道、相撲の修得者数(有段者数)	成果実績	人	156,513	162,269	174,970	-	
			目標値	人	180,000	180,000	180,000	180,000	
			達成度	%	87	90.1	97.2	-	
<b>成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績</b>	日本武道館補助金実績報告書、事業報告書 ※令和2年度は、東京2020大会の開催と重なったため実施していない。 ※令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限及び無観客で行った。								
<b>アウトカム設定について の説明</b>	<b>アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由</b>								
	-								
	<b>アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由</b>								
	アクティビティである武道指導者講習会の実施が、最終目標である武道指導者の増加と資質向上、学校体育での武道指導の充実に結びつくため。								

活動内容④ (アクティビティ)	(4) 武道国際交流事業 国際武道文化セミナーの開催、海外に武道代表団を派遣しての交流事業								
↓									
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	日本に留学中、滞在勤務中の外国への武道国際交流事業の開催。	武道国際交流事業開催数	活動実績	回	1	1	2	-	-
			当初見込み	回	2	1	1	2	2
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	日本に留学中の外国人留学生及び在日大使館などに勤務する外国人を対象に、日本の伝統文化である武道の歴史・理論・技術についての講義と実技、体験セミナー等を行い、武道の国際的理解と発展、国際友好親善を図るために武道国際交流事業参加者数を短期アウトカムとして設定した。							
成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度	
	武道国際交流事業への参加者を300人に する。	武道国際交流事業参加者数	成果実績	人	75	31	247	-	
			目標値	人	300	300	300	300	
			達成度	%	25	10.3	82.3	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに関 する成果実績	日本武道館補助金 実績報告書 ※令和2年度は、東京2020大会の開催と重なったため実施していない。 ※令和3年度、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限及び無観客で行った。								
↓	成果目標④-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	武道国際交流事業の実施が、最終目標である武道の国際的理解と発展、日本文化の理解に結びつくため、長期アウトカムとして設定した。							
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10 年度	
	武道国際交流事業を開催し、日本文化の 理解を深める。	武道を通じた日本文化への理解 の深まり	成果実績	%	-	-	-	-	
			目標値	%	-	-	-	100	
			達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに関 する成果実績	日本武道館アンケート調査								
アウトカム設定につい ての説明	アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
	-								
	アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								
	-								



スポーツ庁  
61.9百万円  
※公益財団法人日本武道館の実施する各種事業に必要な経費の一部を補助金として交付する。



【補助】  
A. (公財)日本武道館

古武道保存事業  
555,000円

青少年武道錬成大会開催事業  
9,890,000円

武道指導者講習会  
42,637,000円

武道国際交流事業  
8,853,000円

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・使途 (「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金額 が支出されている者につ いて記載する。費目と使 途の双方で実情が分かる ように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	旅費	講師旅費等	27.3			
	諸謝金	講師謝金等	22.4			
	雑役務費	大会会場設営、動画資料作成等	5.5			
	印刷製本費	配布資料等	4.1			
	会議費	会場備品レンタル等	2.7			
計		62	計			
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	公益財団法人日本武道館	8010005004194	各種武道の振興発展	62	補助金等交付	-	-	
支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載								チェック